

凧絵にみる兜について

ー金子富夫凧コレクションー

岸 上 興一郎

はじめに

平成 11 年（1999）1 月 15 日、建築家金子富夫凧コレクションの一部、凧 189 点に加え浮世絵・横浜凧の会のハッピーなどをお借りして企画展『たこ凧あがれ』ー伝統凧づくり展ーを横浜市歴史博物館で開催した。

金子富夫さんと横浜市の文化行政との関わりは、この企画展に先ずる、昭和 60 年（1985）の初夏であった。横浜市は当時、政令指定都市の中で唯一文化財保護条例をもっていなかった（昭和 63 年 4 月 1 日同条例施行）。そのような環境のなかで、少しでも横浜で育まれてきた文化を元気な少年少女に伝える方法を模索し、多くの市民の方々の協力を得て【ふるさと横浜体験スクール】を発足させた。その中の 1 課程に横浜発祥とされている六角凧「横濱メ子の兎凧」作りがくみこまれた。金子さんは当時、日本の凧の会横浜支部相談役にあった。当スクールは、9 年間実施された後、横浜市歴史博物館の創設に伴い博物館の事業の一つとして「横濱メ子の兎凧」作り教室として再スタートした。今日では、作成する凧は干支縁起凧にと変化しているが、凧作り教室は続けられている。

富夫さんの稼業を継いだ建築家金子修司さんから電話連絡（平成 30 年 8 月 27 日）をいただいた。なつかしい声であった。用件は、親父さんの凧コレクションに関してであった。凧を収蔵する建物を立て替える案がある。親父さんの遺した凧に対しての対処方法の相談であった。9 月 28 日、金子家を訪問し、話し合いの後、凧収蔵場所を見聞した。親父さんから凧に関するある程度の話は聞かされていたが、目の前にすると、抱いていたイメージ以上の点数であることが推測され、その凧の現状及び点数確認の作業スペースは 1 人が限度と判断した。結果、毎週火曜日の午前中を凧の状態と点数確認にあて、午後はデータ整理とし、10 月 2 日から作業を開始した。そしてデータは逐次 FAX で金子家へ報告することとした。

平成 31 年（2019）5 月 21 日、国内外の凧及び凧制作のヒゴや大会記念のバッジなどを含む、総数 4,000 点を越す確認作業は終わった。これらの作業中、横浜市歴史博物館と連絡をとり、協力と対処方法の検討をお願いした。博物館は大型修繕の最中であった。まず凧の燻蒸である。燻蒸庫を使用できる日時の確認である。令和元年（2019）6 月 18 日に燻蒸庫は空になることが分かった。そこで翌 19 日を凧の搬入日とした。当日は、天気もよく、段ボール箱あるいは大きなビニール袋に梱包された凧は、刈田均さんの協力を得て、



第 1 図 橋本禎造作「横濱メ子の兎凧」

博物館の燻蒸庫に無事に納まった。燻蒸庫の規模は2.5 × 2.7 × 3 mで約20立米の容量をもつが、風では一杯となった。燻蒸には、二酸化炭素を使用するため通常は2週間を必要とする。今回の開扉日は、博物館の夏休み事業を鑑み、7月12日となった。搬出作業は大勢の関係者の協力によって、逐次、作業場の机上(30台)などに並べおかれていった。

資料カードに記録登録する作業は、8月27日(火)に開始され、毎週火曜日をあてた。風一点一点を観察し、状態・計測・形・制作者・産地などを記入し、写真撮影へと進み、そして記録媒体への登録という一連の流れの作業をおこなった。作業が後半にはいった時、ちょっと楽しい話が舞い込んだ。それは博物館では例年、年末年始の恒例展示として、その年度の横浜市新指定文化財を紹介する企画展が組まれている。その展示場のひと隅に新指定文化財ではないが、調査中の風資料の展示を、という話であった。さっそく風の整理に携わっている仲間に話をし、検討を開始した。各人が調査中に出会った国内外の風(和風は1,000枚以上を数えた)のなかからアイラブ風を選び、それらを絵柄単位に分類し、さらに展示スペースに合わせた仮展示を試みた後、みなで展示作業にあたった。このような流れの中で、十分に展示にも耐えた風の中で、武者絵に描かれた兜に関心をもった。その様を紙上をかりて報告する。

兜と武者絵風

頭部を飾る兜・兜巾(トキン)・鉢巻の類いを抽出し、各風の特質を掲げる。その基準は先学の名称語彙を参考とした。^{1・2・3}

立物(タテモノ) : 兜の天辺や前後・左右につける装飾具全体を指す。

前立(マエダテ) : 兜の正面に威厳を示す一對の角状飾り物。

脇立(ワキダテ) : 兜の側面左右に威厳を示す一對の角状飾り物。

後立(ウシロダテ) : 兜の背面に威厳を示す飾り物。

頭立(カシラダテ) : 兜の天辺・頂辺(テヘン)の飾り物。

それらの飾り物には各種多様なものがある。威か酷的形相を示す獅噛鋏形(シガミクワガタ)は中世から伝わり、風絵の世界でも描かれている。金子コレクションにも見られる。多く描かれているのは、鋏形と称される飾り物で平安時代から作られ始めたとされ、その形態から長鋏形とか大鋏形などの名称で呼ばれる。鹿角製の飾り物なども知られる。

眉庇(マビサシ) : 兜の額を覆う作り物。

鋏形台(クワガタダイ) : 眉庇に固定された鋏形などを挿入する台。前立などは初期においては紐でもって縛り付ける方法であった。その後、鉤で固定する方法がとられたが、鎧櫃への出し入れに支障が生じ、工夫され、鋏形を挿入したり抜いたりすることが可能な鋏形台が考案された。

祓立(ハライダテ) : 眉庇の中央、ほぼ眉間にあたる個所の作り物で、そこには龍や獅子、あるいは家紋などの細工物が固定された。風絵に描かれた家紋はモデル人物名を割り出す資料とされよう。また東京の風絵師、例えば橋本禎造さんのように、風絵の右上などにモデル名を明記してある例が知られ、その場合は家紋との結び付きを認知させる。

以下、調査台帳にしたがい県単位に兜をもつ武者絵風を選び出し、調査台帳番号・制作者・風の呼称・寸法、そしてモデル名は[・・・]内にしめた。制作者の生誕年が判明しない場合は[不詳]とした。モデ

ル名が判然としない場合は単に〔武者〕とした。参考までにモデルの伝記のごく一部にふれた。それは風絵として人気度や購買度などに繋がると考えられるからである。その頻度数は後述した。

青森県

0107 下村詔三（昭和 19 年～不詳） 南部角風（70.5 × 70.0）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は大鍬形

〔藤原泰衡〕

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は高角形龍胆紋

〔源義経〕

☆藤原泰衡⁴ ?～文治 5 年（?～89） 平安・鎌倉前期の武士

藤原秀衡の次男。奥州平泉藤原氏の最後の当主（4代目）。鎌倉方の強い圧力に屈服し、文治 5 年閏（1189）4 月 30 日、泰衡の兵数百騎は衣川館を襲い、義経・弁慶の一派は全滅し、さらに弟忠衡をも殺害した。同年 8 月 21 日、頼朝の攻撃によって平泉は陥落。泰衡は北方に逃れるが、9 月 3 日に現秋田県大館市に所在した肥内の贅柵で身内の河田次郎によって殺される。泰衡の首は現岩手県紫波郡紫波町陣ヶ岡の頼朝の本営に運ばれ首実検の後、眉間に 8 寸の鉄釘を打ち付け、柱にかけられた。首を持参した河田次郎は、主人殺しの罪により斬刑に処せられた。源義経に関しては後述する。

泰衡の遺骸について、中尊寺金堂内に納まる藤原氏四代のミイラの調査に当たられた鈴木尚さんは次のように述べている⁵。

藤原秀衡の棺の側には、首桶に納められた秀衡三男の泉三郎忠衡の遺体と伝えられるミイラがあった。これは斬首された首級であるが、調査の結果は文献の上で伝えられる忠衡の年令より、明らかに年長と推定されること、および斬首後の釘打ちの刑を受けた痕のあることから、忠衡の兄で家督相続人たる泰衡の誤伝と解釈すべきであるとする点で調査団の意見が一致した。この泰衡の首級は私の経験した数多い戦死者の中で最も残忍な、それだけに最も痛ましいものであって、その記述はそのまま泰衡戦死の前後の日誌を、細かに綴っているようにおもえる。



第 2 図 0107

0451 下村詔三（昭和 19 年～不詳） 南部角風（48.5 × 48.5）

兜：立物・眉庇・祓立に三日月・脇立は鹿角形

〔武者〕

宮城県

0123 松田清夫（大正 9 年～不詳） みちのく天旗（92.2 × 62.0）

兜：立物・眉庇・祓立の物体は不明・前立は鹿角形か

〔武者〕

0294 阿部初男（不詳） みちのく天旗（99.5 × 50.8）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形

〔源義経〕

兜巾：被り物

〔弁慶〕

0404 松田清夫（大正 9 年～不詳） みちのく天旗（76.5 × 31.2）

兜：立物・眉庇・前立は獅嚙大鍬形

〔武者〕

1117 作者不詳 みちのく天旗（51.0 × 36.3）

兜：立物・眉庇・祓立に龍頭・前立は長鍬形

〔源義経：笹龍胆紋〕

秋田県

0163 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（51.0 × 36.3）

兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は鹿角形

[源義経と藤原泰衡か]

0354 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（67.5 × 33.5）

兜：立物・共に鉢巻形

[武者二人]

0389 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（67.8 × 33.7）

兜：被り物は梨子打鳥帽子と鉢巻形 [義経と弁慶]

0436 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（97.5 × 49.5）

兜：立物・眉庇・祓立に四目結紋・前立は長鋏形縛る
鉢巻

[佐々木高綱]

[梶原景季]

☆佐々木高綱⁶ ?～建保 2 年（?～1214）・梶原景季 応保 2 年～正治 2 年（1162～1200）鎌倉時代初期の武将

共に源頼朝に仕えた。寿永 3 年（1184）正月、木曾義仲追討の際、源義経に従い、頼朝から与えられた白馬イケズキを高綱（四目結紋）が、黒馬スルスミを景季（矢羽根紋）が鞭打ち宇治川の先陣を争った。

0755 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（66.5 × 33.0）

兜：立物・眉庇・祓立の後方に鬼・前立は長鋏形 [源頼光：笹龍胆紋]

0959 小松利一郎（大正 11 年～不詳） 合戦風（68.6 × 33.5）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は鹿角形を縛る [加藤清正]

山形県

0043 加藤勇吉（不詳） 人風（114.5 × 50.6）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正とトラ]

0114 原広吉（不詳～昭和 49 年） 米沢角風（85.2 × 65.6）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正とトラ]

0115 原広吉（不詳～昭和 49 年） 米沢角風（85.4 × 65.2）

兜：立物・眉庇・祓立に（四目結紋）・前立は高角形 [佐々木高綱]

兜：立物・眉庇・祓立に龍・鋏形台固定・前立は大鋏形 [梶原景季]

0310 今井利喜助（不詳～昭和 59 年） 米沢角風（78.0 × 49.2）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鋏形 [源頼光と鬼：笹龍胆紋]

☆源頼光⁷ 天曆 2 年～治安 1 年（948～1021）平安時代中期の武将

源満仲の嫡男。頼光は受領歴任で得た財力で摂家への奉仕を努める。その一例をあげると、藤原道長が寛仁 2 年（1018）に土御門殿を新造するや必要な家具調度のいっさいを献上している。他方、四天王（渡辺綱・坂田公時・平貞道・平季武）を配下にもつとか、また酒吞童子を退治した話など、頼光は猛き武将と伝承されているが、その実像はあきらかでないといわれている。

0315 加藤勇吉（不詳） 人風（114.7 × 51.5）

兜：立物・眉庇・祓立に桐紋・前立は大鋏形 [武者と馬]

0349 遠藤良勝（不詳） 角風（62.5 × 44.0）

兜：立物・眉庇・鋏形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は長鋏形

[源頼光と鬼]



第 3 図 0436



第 4 図 0310

- 0434 遠藤良勝（不詳） 角風（73.0 × 47.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正と武者]
- 0811 井上又吉（不詳） 角風（86.5 × 57.0）
 兜：立物は鬼の口中、笹龍胆紋付き [源頼光と武者二人]
 兜：立物・眉庇・祓立に剣・前立は三鍬形
 兜：立物・眉庇・祓立に笹龍胆紋・前立は高角形
- 1091 遠藤良勝（不詳） 角風（60.2 × 48.2）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正と武者]

東京都

- 0096 作者不詳 江戸角風（74.5 × 48.5）
 兜：立物・眉庇・祓立は不明・前立は大鍬形か [武者]
- 0162 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（54.0 × 39.7）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は長鍬形 [佐々木高綱]
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に並び矢羽紋・前立は鹿角形 [梶原景季]
- 0203 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（93.0 × 63.5）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は長鍬形 [佐々木高綱]
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に並び矢羽紋・前立は鹿角形 [梶原景季]
- 0204 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（93.5 × 63.3）
 兜：立物・眉庇・立物をおおう兜巾 [上杉謙信]
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に割菱紋・前立は鹿角形 [武田信玄]
 川中島の合戦上杉謙信は刃を振りかざし、武田信玄は軍配団扇でうける。
- 0205 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（93.5 × 64.2）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源頼光と鬼]
- 0206 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（93.5 × 64.2）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源頼光と鬼]
- 0207 橋本禎造（明治37年～平成3年） 江戸角風（93.0 × 63.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は長鍬形

[源義経八艘飛]

☆源義経⁸ 平治1年～文治5年（1159～89）鎌倉時代前期の武将
 源義朝の九子。母は常盤。幼名牛若丸。義経は源頼朝の異母弟で、奥州平泉の藤原秀衡の庇護をうけた。兄頼朝の挙兵に参加（治承4年：1180）。その後、義経は京中で狼籍を繰り返す木曾義仲を討伐（寿永3年：1184）し、同年2月には現神戸市摂津一の谷での「鴨越の奇襲戦法」で平氏に潰散的打撃をあたえる。だが後白河上皇の離間策によって頼朝との間に暗雲がたち始める。義経は翌文治元年（1185）に現香川県「屋島」と現下関市「壇ノ浦」などで戦勝するものの、頼朝の不信は増幅し、ついに刺客土佐坊昌俊の襲撃をうける。弁慶などを伴って藤原秀衡の住む平泉への逃避行につく。〔青森県 0107・静岡



第5図 0207

県 0873・鳥取県 0645 - 2 - ⑦など参照]

なお源氏の家紋の一つササリンドウ紋は、昭和 27 年（1952）11 月 3 日に鎌倉市章に制定された。

- 0220 作者不詳 江戸角風（24.3 × 17.7）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に龍・前立は大鍬形 [源義経]
- 0221 作者不詳 江戸角風（24.3 × 17.1）
兜：立物・眉庇・祓立に鬼がかみつく・前立は大鍬形 [源頼光と鬼]
- 0224 木村（不詳） 江戸角風（35.9 × 23.2）
兜：立物・眉庇・祓立に笹竜胆紋・前立は長鍬形 [源頼光と鬼]
- 0403 田中末吉（不詳） 江戸角風（58.7 × 43.1）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立の紋不明・前立は高角形 [渡辺綱]
- 0470 作者不詳 江戸角風（48.4 × 35.0）
兜：立物・眉庇・祓立に笹龍胆紋・前立は長鍬形 [源義家]
- ☆源義家⁹ 長暦 3 年～嘉承 1 年（1039～1106） 平安時代後期の武将
源頼義の嫡子。幼名源太。石清水八幡宮で元服したので八幡太郎と称した。当時、武士的要素を強くもつ人々は、中央官職の武官に任ぜられ、武者と呼ばれた。父頼義は有力な武者で、義家もその道を歩み、前九年の役（永承 6 年～康平 5 年：1051～62）、後三年の役（永保 3 年～寛治 1 年：1083～87）に参戦する。後者の役では、平泉の初代藤原清衡を助けるとともに、自らは源氏の東国における勢力基盤を築いた。
- 0654 作者不詳 江戸角風（43.5 × 32.7）
兜：立物・眉庇・祓立を含む頭部に噛みつく鬼・前立は長鍬形 [源頼光と鬼]
- 0782 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 江戸角風（27.4 × 20.5）
冑：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は大鍬形 [佐々木高綱]
- 0807 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 江戸角風（27.3 × 20.0）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 0863 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 江戸角風（122.0 × 72.5）
兜：立物全体をおおう兜巾 [上杉謙信]
兜：立物・眉庇・前立は獅噛鍬形 [武田信玄]
- 0865 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 江戸角風（109.0 × 70.0）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は長鍬形 [佐々木高綱]
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に並び矢羽紋・前立は鹿角形 [梶原景季]
- 0930 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 江戸角風写真（36.2 × 25.7）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・笹龍胆紋・前立は獅噛鍬形 [源義経八艘飛]
兜：立物・鉢巻（1 人のみ） [武者 2 人]
- 0979 橋本禎造（明治 37 年～平成 3 年） 会津ほまれ広告用江戸角風（72.0 × 51.3）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は長鍬形 [佐々木高綱]



第 6 図 0470

- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に並び矢羽紋・前立は鹿角形 [梶原景季]
- 1085 -③ 作者不詳 江戸角風絵 (116.2 × 82.0)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
- 1119 作者不詳 江戸角風 (72.7 × 51.0)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 1152 橋本禎造 (明治 37 年～平成 3 年) 江戸角風 (93.2 × 62.7)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は長鍬形 [佐々木高綱]
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に並び矢羽紋・前立は鹿角形 [梶原景季]
- 1153 橋本禎造 (明治 37 年～平成 3 年) 江戸角風 (93.5 × 63.5)
- 兜：立物・眉庇・立物全体をおおう兜巾 [上杉謙信]
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は鹿角形 [武田信玄]

新潟県

- 0323 小林彦一 (不詳) 六角豆風 (23.5 × 19.0)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
- 0327 佐藤光琇 [須藤屋 5 代目] 六角豆風 (21.8 × 17.8)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 0328 佐藤光琇 [須藤屋 5 代目] 六角豆風 (22.0 × 17.8)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に三峰・前立は大鍬形・笹龍胆紋付き [源義経]
- 0329 佐藤光琇 [須藤屋 5 代目] 六角豆風 (22.0 × 17.8)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に噛み付く鬼・前立は高角形 [渡辺綱]
- 0339 作者不詳 六角風 (39.1 × 29.5)
- 兜：立物・眉庇に笹龍胆紋・鍬形台固定・祓立に龍・前立は大鍬形 [源義経]
- 0361 佐藤光琇 [須藤屋 5 代目] 六角風 (76.0 × 61.8)
- 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に三峰・前立は大鍬形・笹龍胆紋付き [源義経]
- 0437 宮崎 (不詳) 六角風 (85.0 × 63.0)
- 兜：立物・鍬形台固定・獅噛鍬形 [那須与一]
- 0460 木村三郎 (不詳) 盃風 (52.5 × 119.6)
- 兜：立物・眉庇・立物全体をおおう兜巾 [馬上の上杉謙信]

☆上杉謙信¹⁰ 享祿 3 年～天正 6 年 (1530～78) 戦国時代の武将

越後守護代長尾為景の末子として誕生。天文 22 (1553) 年 8 月、謙信は北信濃に迫った武田信玄と信濃国川中島で最初の対陣。信玄は天正 1 年 (1573) に病死する。謙信は越中を平定する。 [山梨県 1186 参照]

- 0468 作者不詳 六角風 (61.7 × 45.1)
- 兜：梨子打烏帽子を鉢巻でしばる [武田信玄]

- 0515 作者不詳 盃風 (42.2 × 78.3)



第 7 図 0460

- 兜：冑以外に蛇目紋 [加藤清正か]
- 0613 蒲沢松華（不詳） 角風（78.0 × 55.2）
 兜：梨子打立物・眉庇・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形・鬼 [源頼光と鬼]
- 0614 蒲沢松華（不詳） 角風（78.7 × 56.2）
 兜：烏帽子を鉢巻でしぼる [那須与一]
- 0657 小林祥二（昭和 17 年～不詳） 六角風（47.0 × 38.1）
 兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 0749 須藤屋（不詳） 六角風（93.6 × 76.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に三峰・前立は大鍬形・笹龍胆紋 [源義経]
- 0957 須藤屋（不詳） 六角風（44.8 × 44.6）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 1055 佐藤光琇〔須藤屋 5 代目〕 六角豆風（22.0 × 17.8）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に鬼・前立は高角形 [渡辺綱]
- 1058 小林彦一（不詳） 六角豆風（23.5 × 18.7）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
- 1159 小林彦一（不詳） 六角風（122.5 × 94.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
- 1165 小林祥二（昭和 17 年～不詳） 六角風（83.0 × 63.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に鬼神嚙みつく・前立は大鍬形 [源頼光]

山梨県

- 0516 山本（不詳） 甲州角風（61.0 × 48.0）
 兜：立物・眉庇・祓立は獅嚙鍬形の異形か・脇立は鹿角形 [武田信玄]
- 1186 山本（不詳） 甲州角風（62.0 × 48.0）
 兜：立物・眉庇・祓立は獅嚙鍬形の異形か・脇立は鹿角形 [武田信玄]

☆武田信玄¹¹ 大永 1 年～天正 1 年（1521～73） 戦国時代の武将
 父は信虎、母は大井氏。積翠寺で誕生し幼名太郎、永禄 2 年（1559）2 月出家して信玄と称した。信玄は歴代守護職の 17 代目にあたる。天文 22 年（1553）8 月、信濃へ出陣し、川中島ではじめて長尾景虎（上杉謙信）と対陣する。両者はその後、永禄 7 年（1564）までのほぼ 10 年間に、主な対戦でも 5 度にわたって川中島で対決している。
 [新潟県 0460 参照]



第 8 図 1186

なお昭和 44 年（1969）4 月 12 日、信玄の命日に、武田信玄公銅像建立奉賛会から銅像が寄贈され甲府駅前には設置。その後昭和 60 年に甲府駅ビル西側の現在地に移された。像の高さは 3.1 m、重さ 5t で台座は御影石。像の頭には獅嚙鍬形の兜をかぶる。

静岡県

- 0121 池谷錠（明治 27 年～不詳） 宗高風（85.5 × 76.0）

兜：立物・祓立は不詳・前立は大鍬形 [那須与一]

☆那須与一¹² 生没年不詳 鎌倉時代前期の武士

下野国の豪族那須資隆の11番目の子とされ、小兵ながら弓矢をよくし、文治1年(1185)2月、源義経に従い屋島の戦いに参戦した。平家方の小舟に立てた扇の的を一矢でみごとに射落として敵味方の称賛を博した。『平家物語』や『源平盛衰記』などに名場面とされているが、確かな史料にはみえず、物語上の人物ではとされているが、後世、与一の扇打ちは能や歌舞伎に取り上げられ、民衆に広く知られるようになった。



第9図 0121

[渡辺綱]

0167 芹沢信吾(多古信：大正3年～不詳) 角風(68.0×53.0)

兜：立物・眉庇・祓立や前立を含む頭部に噛みつく鬼

0236 芹沢信吾(多古信：大正3年～不詳) 長泉風(42.3×40.8)

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形

兜：立物・眉庇・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形

[加藤清正]

[源義経]

0242 作者不詳 住吉風(71.5×59.0)

兜：立物・眉庇・祓立は四目結紋か・前立は高角形 [海上の武者]

0247 加藤辰三郎(多古八3代目：明治32年～不詳) 駿河風(88.4×80.7)

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に龍・前立は大鍬形 [平敦盛]

☆平敦盛¹³ 嘉応1年～元暦1年(1169～84) 平安時代末期の武将

ヒチリキの名手として伝えられる。摂津の一谷の戦い(元暦1年：1184)で、兄経正・経俊と共に戦死。『平家物語』には、海上に逃れようとしたが、源氏軍の熊谷直実と呼びとめられ、引き返し戦いに望んだが、15歳の生涯であった。直実はその年齢に痛み、出家したとされている。この伝承をうけて謡曲『敦盛』などが創作された。



第10図 0247

0255 加藤辰三郎(多古八：明治32年～不詳) 駿河風(88.0×81.0)

兜：立物・眉庇・祓立に紋の一部と右手拳・前立は高角形

[加藤清正とトラ]

0347 池谷錠(明治27年～不詳) 風(42.3×38.0)

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]

0397 芹沢信吾(多古信：大正3年～不詳) 角風(71.7×54.0)

兜：立物・宝冠か [神功皇后]

☆神功皇后(不詳)¹⁴ 名は氣長足姫尊(息長帯日売命：オキナガタラシヒメノミコト)

神功皇后は仲哀天皇(即・退位192.1.11～200.2.6)の皇后で、天皇の西征に同行。天皇の陣中での崩御後、皇后は霊媒による神託を受け、兵を韓半島へ進軍させるなど、長期にわたる覇権を維持したという神話伝説が伝承されている。皇后を描いた絵巻物『神功皇后縁起』(重要文化財：明治43年指定) - 6代將軍足利義教



第11図 0397

の奉納（永享5年：1433）－が大阪府羽曳野市誉田八幡宮に所蔵され、その風俗は室町時代に属すとされている。さらに奈良薬師寺休ヶ岡八幡宮の社殿に安置されている木造神功皇后像は国宝（昭和26年6月9日指定）で、9世紀末期の作品とされ、平安時代初期の上流女子の彩色された服装を呈し、風俗史上でも重要な遺品とされている。

☆武内宿禰¹⁵：神功皇后の従者として武内宿禰が描かれている。大和朝廷の初期、景行・成務・仲哀・応神・仁徳の五朝244年間仕えたという伝説がある。神功皇后の韓半島征伐にも活躍したという。これらは史実として信じがたいとされている。

- 0455 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（57.5 × 52.7）
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 0578 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（56.0 × 52.2）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に割菱紋・前立は大鍬形 [武田信玄]
- 0605 福田六太郎（不詳） 住吉風（66.0 × 62.2）
兜：立物・眉庇・前立は高角形・他の立物は軍配団扇で隠れる [武田信玄]
- 0609 池谷錠（明治27年～不詳） 宗高風（63.6 × 61.0）
兜：立物・眉庇・前立は大鍬形 [海上の武者]
- 0659 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（63.8 × 52.0）
兜：立物・眉庇・祓立や前立を含む頭部に噛みつく鬼神 [渡辺綱]
- 0747 池谷錠（明治27年～不詳） 宗高風（94.0 × 76.5）
兜：立物・眉庇・祓立に笹龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
弁慶：兜巾 [弁慶]
- 0873 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（100.0 × 97.6）
兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形 [源義経]
兜：立物・眉庇兜巾 [弁慶]

☆弁慶¹⁶？～文治5年（？～1189） 鎌倉時代前期の僧

熊野別当の子といわれ、幼名を鬼若丸、号は武蔵坊。はじめ比叡山の僧として西塔の武蔵坊に住んでいたが、のちに源義経の従臣となり、兄頼朝に追われる身となった義経を助けながら平泉に向かう。その道中、現石川県小松市かけはし川沿いに設けられた安宅の関で守護富樫泰家に見とがめられるが、弁慶の機転で「勸進帳」を読み聞かせ無事に通過する。歌舞伎十八番の一つ「勸進帳」のもとになる。また義経・弁慶の死処となる衣川の戦での弁慶の立ち往生は英雄・豪傑説話として伝承された。 [青森県 0107 参照]



第12図 0873

- 1166 加藤阿さ子（多古八：4代目昭和3年～不詳）
駿河風（76.5 × 64.3）
兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形 [源義経]
- 1190 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（100.5 × 95.5）
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 1191 芹沢信吾（多古信：大正3年～不詳） 駿河風（100.5 × 94.4）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形

[加藤清正]

愛知県

0155 中島義治（不詳） ケロリ（49.6 × 77.0）

梨子打烏帽子と鉢巻

[堀尾茂助]

☆堀尾茂助（吉晴）¹⁷ 天文12年～慶長16年（1543～1611）安土桃山時代の武将

尾張国丹羽郡（愛知県）の土豪堀尾泰晴の長男。幼名仁王丸。豊臣秀吉の信任が厚く、豊臣三不老の一人に任ぜられた。温厚で誠実な性格であったため「仏の茂助」と称された。

0822 中島義治（不詳） 八つ花風（62.0 × 60.5）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は高角形か

[木村重成]

☆木村重成¹⁸ ?～元和1年（?～1615）江戸時代初期の武将（豊臣方）

慶長19年（1614）大阪冬の陣に籠城。同年和睦に際して豊臣秀頼（秀吉の2男：文禄2年～元和1年）の使者として徳川方の陣所に赴き、徳川秀忠（家康の3男：天正7年～寛永9年）の誓紙を受け取った。翌元和1年（1615）の夏の陣にも籠城したが、5月6日、若江で井伊直孝の軍勢と戦い敗北し、討ち死にした。

1094 利樹（不詳） 角風絵（113.0 × 70.3）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形・笹竜胆紋

[源義経と静御前]

1168 作者不詳 コマ風（48.2 × 53.0）

兜：立物・眉庇・祓立に獅噛鍬形

[武者]

1193 外山由夫（不詳） ケロリ（69.3 × 102.5）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に家紋・前立は長鍬形か

[渡辺綱]

大阪府

0634 木村薫（昭和23年～不詳） 勝間扇風（33.2 × 53.0）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に四目結紋・前立は高角形

[佐々木高綱]

兵庫県

0492 松谷秀夫（昭和2年～不詳） 播州明石角風（60.5 × 45.5）

鉢巻

[巴御前]

☆巴御前¹⁹ 生没年不詳 平安時代末期の木曾義仲の側室

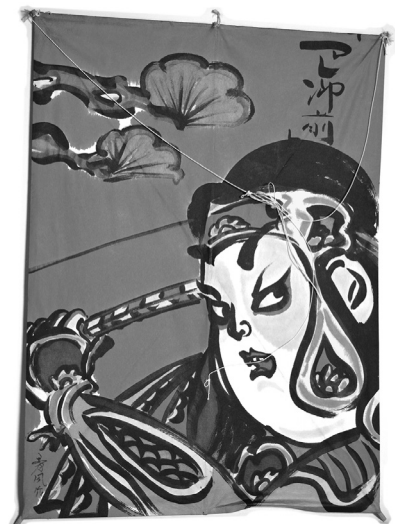
中原兼遠の娘。武勇にすぐれた女性で、義仲の部将（一部隊の大將）として戦功をたて、義仲が近江へ敗走した際も従い勇名をあげたが、義仲にさとされ帰国。のち尼となり、越後国友松に移住したと伝えら



第13図 0155



第14図 0822



第15図 0492

れている。

0661 松谷秀夫（秀風：昭和2年～） 播州明石角風（60.2 × 45.0）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は鹿角形

[武者]

0664 松谷秀夫（秀風：昭和2年～） 播州明石角風（60.7 × 44.7）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は鹿角形

[武者]

鳥取県

0212 田中達之助（不詳） 鳥取イカ（77.2 × 72.5）

兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形

[佐々木高綱]

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は鹿角形

[梶原景季]

0331 作者不詳 マス風（38.5 × 35.3）

兜：立物・眉庇・前立は長鍬形

[武者：子供用風]

0382 作者不詳 マス風（69.0 × 72.5）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形

[加藤清正]

0562 三好平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ（79.5 × 54.5）

兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は大鍬形

[源義経]

0645 - 1 三好明（不詳）・平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ絵 [昭和51年12月10日制作]

1件11点：兜関係は①②③④⑤⑦⑧⑩⑪の9点

①兜：立物・眉庇・前立は鍬形（58.5 × 56.1）

[源頼光と鬼]

②鉢巻・梨子打烏帽子（58.5 × 56.1）

[那須与一か]

③兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は長鍬形（58.5 × 56.1）

[源義経]

④源義経は無兜・弁慶は兜巾（58.5 × 56.1）

[源義経と弁慶]

⑤兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は長鍬形（58.5 × 56.1）

[源義経]

0645 - 2 三好明（不詳）・平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ絵 [昭和51年12月10日制作]

⑦兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は大鍬形（58.5 × 56.1）

[源義経と静御前]

☆静御前²⁰ 生没年不詳 源義経の妾

磯の禅師の娘。平安時代末期の京都で舞の名手として知られた。文治元年（1185）11月、静御前は義経が兄頼朝にせめられ出奔するのに随行。彼女は吉野で捕らえられ、京都で北条時政の尋問を受け、翌年に鎌倉へ送られ、義経の行方を尋問される。4月に鶴岡八幡宮で舞う。閏7月、男子を出産するが、義経の子だとされ、その日のうちに子は殺される。9月に京都に帰ったが、その後は不明。『義経記』や能『吉野静』などで人々に広く親しまれた。

⑧兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は大鍬形

[武者と那須与一か]

鉢巻・梨子打烏帽子（58.5 × 56.1）

⑩兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は大鍬形（58.5 × 56.1）

[渡辺綱と鬼]

⑪兜：立物・眉庇・前立は鍬形（58.5 × 56.1）

[渡辺綱と鬼]

0646 三好平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ（73.8 × 54.7）



第16図 0645 - 2 - ⑦

- 兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は大鍬形・裾に龍胆紋 [源義経八艘飛]
- 0647 三好平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ（71.5 × 54.6）
 兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は大鍬形か [源義経と静御前]
- 0648 三好平吉（備後屋6代目） 鳥取イカ（78.8 × 54.6）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に鬼神が噛みつく・前立は大鍬形 [源頼光]
- 1028 田中達之助（不詳） 鳥取イカ（71.4 × 71.5）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は鹿角形 [梶原景季]
 兜：立物・眉庇・祓立に龍・前立は大鍬形 [佐々木高綱]
- 1029 作者不詳 マス風絵（71.0 × 72.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に鬼神が噛みつく・前立は大鍬形 [源頼光]
- 1031 作者不詳 マス風絵（71.3 × 72.0）
 兜：立物・眉庇・祓立に日輪・前立は短角形 [武者と馬]
- 1073 田中達之助（不詳） マス風絵（71.5 × 71.5）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は大鍬形 [武者二人]
- 1092 作者不詳 マス風絵（59.0 × 56.4）
 兜：立物・眉庇・頭上に握り拳 [上杉謙信]
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は高角形 [武田信玄]

- 1093 作者不詳 マス風絵（59.0 × 56.4）
 兜：立物・眉庇・祓立に・前立は高角形 [渡辺綱と鬼神の腕]
 ☆渡辺綱²¹ 天暦7年～万寿2年（953～1025） 平安時代中期の武将

嵯峨源氏の宛（アツル）の子。後、源満仲の養子となる。綱は源頼光の郎等として四天王に名をつらねる。頼光につき従い酒吞童子を退治した話や、また綱の武勇譚として平城京内の一条戻橋で鬼神に襲われたが、逆にその片腕を切り落としたという説話も伝わる。

島根県

- 0063 長島重義（澄月：不詳） 鬼風（56.5 × 31.5）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日・前立は鍬形 [武者]
- 0459 平井吉人（明治38年～不詳） えぐり風（64.5 × 55.0）
 兜：立物・眉庇・獅噛鍬形 [武者]
- 0753 深津芳春（不詳） えぐり風（98.0 × 83.5）
 兜：立物・兜巾 [上杉謙信]
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立は獅噛・前立は高角形・割菱紋 [武田信玄]
- 0861 丸か工房 えぐり風（64.5 × 55.5）
 兜：立物・眉庇・獅噛鍬形 [武者]



第17図 1093



第18図 0753

香川県

- 0035 木下商店 ゴンボイカ (76.5 × 77.4)
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は高角形・笹龍胆紋 [源義経]
- 0047 本多敏雄 (不詳) つりがねイカ (92.2 × 61.4)
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
兜：立物・眉庇・祓立に柏紋・前立は大鍬形 [武者]
- 0101 作者不詳 ゴンボイカ (97.6 × 95.2)
兜：立物・眉庇・祓立に龍胆紋・前立は大鍬形 [源義経]
- 0225 作者不詳 マスイカ (豆風：18.7 × 18.0)
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- 0417 磯崎なつえ (3代目：昭和4年～不詳) ゴンボイカ (82.5 × 71.2)
兜：立物・眉庇・祓立の名称不明・前立は高角形か [武者]
- 0425 磯崎なつえ (3代目：昭和4年～不詳) かるた風 (80.0 × 54.5)
鉢巻 [武者]
- 1149 本多敏雄 (不詳) つりがねイカ (149.5 × 95.5)
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
兜：立物・眉庇・祓立に柏紋・前立は大鍬形 [武者]
- 1162 作者不詳 ゴンボイカ (65.3 × 59.8)
兜：立物・眉庇・前立は長鍬形 [武者]

愛媛県

- 0030 末広数雄 (明治43年～不詳) 伊予武者角風 (61.9 × 46.0)
兜：立物・眉庇・祓立に三星紋・前立は小さな高角形 [源頼光と鬼神]
- 0040 末広数雄 (明治43年～不詳) 伊予武者角風 (61.3 × 46.5)
兜：立物・眉庇 [源義経と武者]
- 0285 末広数雄 (明治43年～不詳) 伊予武者角風 (60.6 × 45.2)
兜：立物・眉庇・兜巾 [上杉謙信]
兜：立物・眉庇・獅嚙鍬形 [武田信玄]
- 0286 末広数雄 (明治43年～不詳) 伊予武者角風 (60.0 × 46.8)
兜：立物・前立は小さな鹿角形 [神功皇后と武内宿禰]
- 0303 末広数雄 (明治43年～不詳) 伊予奴風 (43.2 × 65.5)
兜：立物・眉庇・祓立に [い] 紋 [大石内蔵助良雄]
☆大石良雄²² 万治2年～元禄16年 (1659～1703) 江戸時代中期の播磨国赤穂藩士

浅野家の代々家老の家に生まれる。元禄14年 (1701) 3月14日、勅使御馳走役を務める藩主浅野長矩は江戸城中松の廊下において同役筆頭吉良上野介義央を切りつけ傷を負



第19図 0303

わせた。長矩は夕刻に切腹。赤穂事件の発端である。良雄は浪士を指導し、翌 15 年 12 月 15 日午前 4 時ごろに吉良邸に討ち入り、義央の首級をあげる。後、その逸話は、浄瑠璃・歌舞伎脚本・講談、さらには映画・TV などに取り上げられ年末の恒例娯楽の一つとなった。

0343 末広数雄（明治 43 年～不詳） 伊予奴風（43.0 × 75.8）
兜：立物・眉庇・祓立に〈い〉紋 [大石内蔵助良雄]

0602 松本元枝（明治 39 年～不詳） 伊予帆風（65.7 × 49.2）
兜：立物・鍬形台固定・前立は大鍬形 [武者と馬]

高知県

0105 吉川登志之（一溪：大正 14 年～不詳） 土佐風（91.5 × 80.5）
兜：立物・鉢巻・頭上に鬼神・前立は長鍬形鉾打ち [源頼光と鬼神]

1224 吉川登志之（一溪：大正 14 年～不詳） 土佐風（129.2 × 112.0）
兜：立物・前立は長鍬形鉾打ち [武者]

福岡県

0036 竹内義博（孫次 2 代目：昭和 18 年～不詳） ウチカケ（78.2 × 85.2）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に三日月紋・前立は大鍬形 [武者]

0422 北村勉（不詳） 鎧人形風（83.8 × 51.6）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に家紋・前立は三日月形 [細川勝元]

☆細川勝元²³ 永享 2 年～文明 5 年（1430～73） 室町時代中期の武将
官領細川持之の嫡子。父の死に伴い、13 歳で細川宗家を継ぐ。文安 2 年（1445）以降、3 度官となる。将軍家や畠山・斯波氏などの跡継ぎ争いをめぐって山名持豊と対立。応仁の乱（応仁 1 年～文明 9 年：1467～77）が起これば勝元は東軍の主将として 8 代将軍足利義政を推戴して畠山政長を助け、山名持豊を主将とする西軍と戦ったが、その最中、勝元は亡くなる。勝元は平素は座禅の世界に身をおき、京都竜安寺を創建した。また和歌・絵画などをこのみ、医術にも長け、医書『靈蘭集』を著す。

0440 竹内孫次（孫次初代） ウチカケ（77.0 × 83.3）
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は鍬形か [加藤清正]

0506 竹内孫次（孫次初代） ウチカケ（47.5 × 42.3）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は大鍬形 [武者]

0552 竹内家製山笠風（67.0 × 48.0）
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は不明
[山笠・加藤清正・カップ]

1183 竹内孫次（孫次初代） ウチカケ（77.8 × 82.5）
兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は大鍬形か [加藤清正]

長崎県

0174 坂井義春（昭和 2 年～不詳） バラモン（63.0 × 38.0）
兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に扇・前立は大鍬形 [武者]



第 20 図 0422

- 0271 長嶋重義（不詳） ヨウキュウ（77.8 × 48.8）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は鍬形 [武者]
- 0288 土肥寛次（大正9年～不詳） ヨウキュウ（66.2 × 45.2）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立は不明・前立は鍬形か [武者]
- 0433 平尾寛孝（不詳） ヨウキュウ（89.6 × 60.7）
 兜：立物・眉庇・祓立に龍頭・前立は高角形 [武者]
- 0565 作者不詳 ヨウキュウ（83.0 × 50.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に兎・前立は大鍬形 [武者]
- 0566 長嶋澄月（不詳） ヨウキュウ（88.7 × 61.2）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は鍬形か [武者]
- 0574 三輪義人（3代目：昭和9年～不詳） 鬼ヨウチョウ（82.0 × 57.0）
 兜：両手で握る刀によって、眉庇のごく一部が観察される [武者]
- 0576 白石梅雄（不詳） 鬼ヨウチョウ（77.6 × 58.2）
 兜：立物・眉庇が観察される [武者]
- 0660 作者不詳 ヨウキュウ（51.8 × 33.1）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は鍬形か [武者]
- 0666 平尾寛孝（不詳） ヨウキュウ（68.1 × 48.0）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は高角形 [武者]
- 0789 土肥涯雲（不詳） みな風（36.2 × 33.3）
 兜：立物・眉庇・鍬形台固定・前立は大鍬形 [武者]
- 0790 土肥涯雲（不詳） みな風（36.4 × 33.0）
 兜と梨子打烏帽子：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に蛇目紋・前立は高角形 [加藤清正]
- ☆加藤清正²⁴ 永祿5年～慶長16年（1562～1611） 安土桃山・江戸時代前期の武将



第21図 0566



第22図 0790

尾張国愛智郡中村（現名古屋市中村区）生まれと伝える。豊臣秀吉と同郷。天正16年（1588）6月、秀吉の「唐入り」の先兵的役割をにない隈（熊）本城を居城とした。文禄元年（1592）釜山へ。トラ刈りのエピソードがうまれる。その後、雄大な熊本城を建築し、城下町を形成。財政強化策のため朱印船で交易を進めた。

現代でも清正の名は地元では特に知られ、熊本大学地質学教室所蔵の鹿角を調べた鹿間時夫・長谷川善和さんは、当該資料の採集地を特定できず、清正の名をかり Cervus Katokiyomasai と命名した。

この情報は春成秀爾さんの論稿の〔註〕中で知った²⁵。また、ひそかに清正を描いた兜に鹿角が描かれているのではないかと思いながら金子風コレクションをあたってみた。秋田県の No.0959、小松利一郎作の合戦風に描かれていた。

0791 土肥涯雲（不詳） みな風（36.3 × 33.1）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に鏡・前立は大鍬形 [武者]

熊本県

0195 築山甚市作・翠香絵（不詳） 武者絵風（78.0 × 77.7）

鉢巻（兜梅図） [武者]

0954 竹田兼喜（不詳） 小川風（55.5 × 55.5）

兜：立物・眉庇・鍬形台固定・祓立に日輪・前立は高角形 [加藤清正]

☆絵柄の清正の左肩には四弁桔梗紋が描かれているが、五弁ではなかろうか。美濃の出の清正は土岐氏の代表的な家紋である桔梗紋を用いたとされている。

大分県

0289 藤原三郎（豊泉堂初代） 耳まがり風（三郎風：65.5 × 70.0）

兜：立物・眉庇・前立は高角形鉾打ち [武者]

0362 藤原三郎（豊泉堂初代） 耳まがり風（三郎風：63.0 × 74.0）

兜：立物・眉庇・前立は高角形鉾打ち [武者]

鹿児島県

0681 作者不詳 スルメ風（40.1 × 37.0）

兜：立物・眉庇・祓立に蛇目紋・前立は高角形・鉾打ち [加藤清正]

以下、武者絵風のうちモデル名が判明できた人物を時代順に整理し、さらに制作者を県単位（頭文字一字とし、同字のあと出の場合は全文字）の風枚数を仕分けすると次のようになる。なお生誕年不詳のモデルの場合は関連するモデルの上下に挿入した。この仕分けによって、かつての地域における好みの風絵の傾向がうかがわれるかも知れない。

神功皇后（2）		静 1		愛媛 1
武内宿禰（2）		静 1		愛媛 1
源頼光（16）	秋 1 山 3 東 5 新 2		鳥 3	愛媛 1 高 1
渡辺綱（9）	東 1 新 2	静 2 愛 1	鳥 3	
源義家（1）	東 1			
藤原泰衡（2）	青 1 秋 1			
弁慶（5）	宮 1 秋 1	静 2	鳥 1	
巴御前（1）			兵 1	
源義経（31）	青 1 宮 2 秋 2 東 4 新 7	静 4 愛 1	鳥 7	香 2 愛媛 1
静御前（3）		愛 1	鳥 2	
那須与一（5）	新 2	静 1	鳥 2	
平敦盛（1）		静 1		

梶原景季 (8)	秋 1 山 1 東 4	鳥 2		
佐々木高綱 (11)	秋 1 山 1 東 6	大 1	鳥 2	
細川勝元 (1)		福 1		
武田信玄 (11)	東 3 新 1 山梨 2 静 2	鳥 1 鳥 1	愛媛 1	
上杉謙信 (7)	東 3 新 1	鳥 1 鳥 1	愛媛 1	
堀尾茂助 (1)		愛 1		
加藤正清 (27)	秋 1 山 4 東 2 新 4	静 6	鳥 1 香 3	福 3 長 1 熊 1 鹿 1
木村重成 (1)		愛 1		
大石内蔵助良雄 (2)			愛媛 2	
武者 (47)	青 1 宮 2 秋 1 山 5 東 2	静 2 愛 1 兵 2 鳥 3 鳥 3 香 5 愛媛 2 高 1 福 2 長 12 熊 1 大 2		

武者絵風の制作者の一例

武者絵風に関する制作者の伝承を数例あげておこう。日本民俗学会会員の斉藤忠夫さんによると、江戸では飯田橋の風問屋・林商店の林多喜蔵さんの話として、林家の先祖は直参の武士で、菊川英山について絵を習った。明治維新に武士を廃し、武家絵風・武者絵風・芝居絵風を全部まとめて、[江戸錦風]と銘打って売り出した最初が林商店とされている²⁶。なお[錦]をとった[江戸風]の呼称は第二次戦争後³という。

跡見学園女子大学講師の松沢光雄さんは、津軽藩では葛飾北斎（宝暦 10 年～嘉永 2 年：1760～1849）の影響を受けているとする。それは北斎が津軽侯のために描いた武者絵がもとになっている。江戸の武者絵が地方の風の絵柄になった一例とも見ることができるという²⁷。

弘前大学の村上善男さんは、津軽風の源流は文久 2 年、藩絵師小田切岩蔵の風絵師への転向が源流だとする²⁸。

津軽の風に関して、ここで一つの仮説を提示しておきたい。江戸生まれの津軽藩江戸定府の侍であった比良野貞彦（助三郎）は、文晁の門人でもあった。八代藩主信明に随従して国元に帰り、国内の民俗を絵筆を使って『奥民圖彙』²⁹中に残す。その成立時期などは記されていないが、諸般の記録から天明 8 年（1778）から寛政 1 年（1789）とされ、貞彦はその後、寛政 10 年にこの世を去っている。その遺作に掲載された風俗・民具には風は描かれていないが、藩公のお国入りは寛政 4 年・6 年・8 年（1796）と続く。藩公の帰国と葛飾北斎の年齢を計算をしてみると、寛政 8 年当時の北斎の年齢は 36 歳となる。

北斎と津軽藩との関係は極初期には良くなかったとされているが、一つの壁を乗り越えた時期から、良好な関係が長く続いたとされる。松沢さんの云う、江戸風は津軽風に影響をしたという説は的を得た指摘とされよう。

次に金子コレクションの武者絵風の制作時期を知るために、上記資料から制作者の生誕年をあたると、明治 27 年（1894）の静岡の池谷錠さん、明治 32 年の加藤辰三郎さん、明治 37 年の東京の橋本禎造さん、明治 38 年の鳥根の平井吉人さん、明治 43 年の愛媛の末広数雄さん、大正 3 年（1914）の静岡の芹沢信吾さん、大正 9 年の宮城の松田静夫さんと長崎の土肥寛次さん、大正 11 年の秋田の小松利一郎さん、大正 14 年の高知の吉川登志之さん、昭和 2 年（1927）の兵庫の松谷秀夫さんと長崎の坂井義春さん、昭和 3 年の加藤阿さ子さん、昭和 17 年の小林祥二さん、昭和 18 年の福岡の竹内義博さん、昭和 19 年の青森の下村詔三さんら 10 数名の方々の生誕年を知ることができる³⁰。明治期誕生の制作者の方々には、江戸期の絵師の技能

がなんらかの形で影響を受け継いでいたにちがいない。

その一人、橋本禎造さんを例にみると、歌川派三代目の絵師で、きよ夫人の巻骨作りを得て〔江戸風〕を仕上げている。禎造さんの残した江戸武者絵風の代表作品の一つである〔源義経〕を制作する過程が、斎藤忠夫さんによって16コマの写真で報告されている²⁶。その2コマ目のキャプションに〔下図を下敷にして木炭筆で軽く下描き〕とある。各コマを観察すると下絵（原図）と推測されるものが5・7・9・10コマ目そして最後の16コマ目に存在していることが窺い知られる。その様は透写している姿である。この類いの原図を茂出木心護（慎太郎：昭和53年没）さんの後継者である茂出木雅章さんは、江戸時代後期の絵師、菊川栄山の家系である小塚家に残されていた墨で描かれた〔墨線〕の存在を報告された³¹。それら資料から推して、先代から継承されてきた墨線を模す慣習が、風絵師のあいだであったことが知られる。それは同じ絵柄の風が存在しているからである。さらに付け加えると、版木の存在も忘れてはならないが。

禎造さんは、新しい風絵を創作する際には何度かのデッサンの繰り返しを試みている。自負する作品は、筆勢のある風絵に仕上げた。その作品は昭和40年代の中頃から国内外で注目され、風揚げ以上に、その力強い江戸風は民芸の世界へと位置付けされていった。

おわりに

風の蒐集にあたった金子富夫さんは、大正3年の誕生で、平成15年に天空のかなたへ〔横浜メ子の兎風〕に乗って飛んで行かれた。武者絵風をはじめとする風の蒐集は、国内外の各地で繰り返されている風揚げ大会や、上記の風制作者の方々に直接会い、談笑しながら集めたにちがいない。

時の流れのなかで、現代の風文化は、西洋料理人の肩書をもつ茂出木心護さんのもとで花が咲く。昭和44年11月23日、〔日本の風の会〕の発会式が執り行われた。さらに彼の蒐集した風を中心に展示する博物館を日本橋〔たいめいけん〕ビル5階に設立したことである。昭和52年11月15日に開館式のテープカットが行われた。この博物館設立にあたって、会員の一級建築士であった金子富夫さんと、学芸大学造形美術教授広井力さんがデザインを担当した。金子さんは、江戸の風文化を伝えた橋本禎造さんの仕事場の一画を同館内に復元した。主たる風文化の現代史の記録は、日本民俗学会会員斎藤忠夫さんによって綴られている³²。さらに日本の風の会からは逐次刊行物の『会報』が発刊され、日本各地の風情報が掲載されていることである。

金子富夫さんは絵画の鑑賞にも長けておられた。風蒐集は青森で見た強い筆力で描かれた南部角風との出会いが出发点であったと伺っている。

謝辞

金子富夫風コレクションにかかわれたことに、御子息の金子修司さんにお礼をもうしあげる。

比毛一朗さんの著書『風大百科』-日本の風・世界の風-（株）美術出版社（1997年）を今回の金子富夫風コレクションの整理調査にあたり座右の書として利用しました。お礼をもうしあげる。

横浜市歴史博物館で継承された風作り教室は、講師として横浜風の会の石井登・仁科昭二・竹内澄男・麻生昇さんのみなさんに指導をお願いした。お礼をもうしあげる。

横浜市歴史博物館前近代歴史資料課の井上攻さんをはじめとする館員のみなさまに多大なご援助をいただ

いた。お礼をもうしあげる。

今回の金子富夫風コレクションの調査整理に携わっていただいた、みなさまに厚くお礼をもうしあげる。

石森朗代 大内ひとみ 加藤七海 倉谷啓子 工藤桃子 小林路子 後藤明子
斉藤麻那 櫻井尚美 佐藤敏江 佐藤夏美 三徳 薫 田島久代 千葉芳子
福田正子 宮内典子 本村裕美 渡邊陽子

【註】

- 1 『日本国語大辞典』（株）小学館 昭和 54 年～昭和 56 年
『図説日本文化史大系』別巻（株）小学館 昭和 43 年
- 2 三浦一郎・永都康之『日本甲冑図鑑』（株）新紀元社 2010 年
- 3 橋本禎造・きよ 喜多川周之『江戸風三代』（株）徳間書店 昭和 53 年
- 4 入間田宣夫「藤原泰衡」『国史大辞典』（株）吉川弘文館 平成五年
- 5 鈴木尚『骨』（株）学生社 昭和 35 年
- 6 安田元久「佐々木高綱」『国史大辞典』同上
「梶原景季」『日本国語大辞典』（株）小学館同上
- 7 隴谷寿「源頼光」『国史大辞典』同上
- 8 安田元久「源義経」『国史大辞典』同上
- 9 安田元久「源義家」『国史大辞典』同上
- 10 井上鋭夫「上杉謙信」『国史大辞典』同上
- 11 柴辻俊六「武田信玄」『国史大辞典』同上
- 12 田代脩「那須与一」『国史大辞典』同上
- 13 飯田悠紀子「平敦盛」『国史大辞典』同上
- 14 津田左右吉「神功皇后」『古事記及び日本書紀の研究』（株）毎日ワーズ 2021 年
岡本堅次『神功皇后』（株）吉川弘文館 昭和 49 年
大河内智之「八幡神像と神仏習合」週刊朝日百科『国宝の美』24 朝日新聞出版 2010 年
- 15 「武内宿禰」『日本国語大辞典』（株）小学館同上
- 16 武覚超「弁慶」『国史大辞典』同上
- 17 岩成博「堀尾茂助（吉晴）」『国史大辞典』同上
- 18 高木昭作「木村重成」『国史大辞典』同上
- 19 「巴御前」『日本国語大辞典』（株）小学館同上
- 20 石田祐一「静御前」『国史大辞典』同上
- 21 隴谷寿「渡辺綱」『国史大辞典』同上
- 22 松島栄一「大石良雄」『国史大辞典』同上
- 23 小川信「細川勝元」『国史大辞典』同上
- 24 森山恒雄「加藤清正」『国史大辞典』同上
- 25 春成秀彌「更新世末の大形獣の絶滅と人類」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 90 集 2001 年
- 26 斎藤忠夫『江戸風絵史』（株）グラフィック社 昭和 55 年

- 27 松沢光雄『江戸の武者絵風』（株）古今書院 昭和五十四年
 - 28 村上善男「北の風師たち」〔東北〕別冊冬『美術手帖』三号美術出版社 昭和五十七年
 - 29 比良野貞彦『奥民圖彙』解題：森山泰太郎『日本庶民生活史料集成』第十卷三一書房 1970 年
 - 30 比毛一朗『風大百科』－日本の風・世界の風－（株）美術出版社 1997 年
 - 31 茂出木雅章監修『江戸風大全集』（株）山海堂 昭和六十三年
 - 32 斎藤忠夫「茂出木心護と風の博物館」別冊冬『美術手帖』三号美術出版社 昭和五十七年
- 〔元横浜市歴史博物館 学芸員〕